

---

# 少女転生物語

りょう

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

少女転生物語

### 【Nコード】

N3324Z

### 【作者名】

りよう

### 【あらすじ】

ある時24歳の女が死んだ。

恥ずかしい死に方だった・・・

あれ??起きたら知らない空間。私が死んだのはミス!!  
誰か責任とってよ~~~~~。

人生とは何て理不尽なの・・・

友1「アイツ、ドジだったからな。」

友2「まあね〜。こんな死に方しても驚かないよ。」

友3「まさか、バナナの皮踏んでその反動道路に飛び出るとか有り得ないよね。」

友1 2 3「ここまで運がないとね」「」「」

<<2日前>>

リオ「今日の夜勤も衝いてなかったな・・・」

そう、私 井上リオ 24歳 女

顔は普通 知能 普通？ 性格普通

運・・・マイナス100

思い起こせば、産まれた瞬間から運がなかった。

産まれてすぐに、母が病死にその2日後に父が事故死

父も母も身寄りは無く 天涯孤独 の身であった。

そのため、産まれてすぐに施設に入れられて。

しかし、ことある事に運の無い私は、6歳の小学校入学の時・・・  
存在を忘れられて、ランドセル なし で登校。

それを知った園長が慌てて買い行ったが何故か売り切れ・・・  
届くまでの2週間ランドセルなし

中学入学 この時は流石に忘れられなかったが、何故か学ランが届

くという奇怪な事が起こった、理由は入学前の検診と購入の際 業者が間違って記入。  
ジャージで1週間登校

#### 中学卒業の時

園長の使い込みが発覚、園は封鎖 新たな園に行くにも年齢的に自立できると言われ 仕方がなく。  
定時制の看護学校 と 高校 に行く事が決定した。（寮付き）  
そして今日にいたるのだが。

今日は、検査室に行ったら何故かドアが開かなくなり、閉じ込められた。

「いつもの事とは分かっているけど・・・いい加減なんで私こんな  
に 運 がないのかしら。」

とボヤいていた矢先

ツルッ

「！！えっ！！ うっ・・・ウソでしょう~~~~！！」

ココで意識が途絶えた。

井上 リオ 24歳

死亡

解因 考え事をしている最中 バナナの皮を踏み何故か車道に反動  
で行き、トラックに跳ねられ 即死

本当に理不尽でした。

うつ・・・

「あれココ何所?？」

確か、夜勤明けで・・・

あつ。確かバナナの皮踏んで、車道に出て・・・

??「死んだんですよ」

リオ「そつかゝゝゝ！死んだんだゝ・・・しんだ?」

??「そうです。死んでしまったのです。」

リオ「そつか・・・死んだのか。ってあなた誰?」

??「あつ！ 姿が見えないの忘れていました。」

パチンッ

??「これで姿が見えますか?？」

ソコには白銀の髪の美しい女の人がありました。

??「人ではないのですがね。」

人では無い？

??「はい。私はこの世界を管理している神です。」

神ですか・・・神様はやはり綺麗なのですね。

神「神だと信じるのですか？」

だって、こんな真っ白い空間どうやったって、人間じゃ作れないし、私今口にしないでいるのに、あなたには考えている事が筒抜けだから。

神「あなたは、賢いんですね。」

賢いと云うか、こんな考えでいないと 運の無い私はやっていけない  
かつただけなんだけど・・・

神「あなたには、誤らないといけない事があります。」

誤ること??

神「そうです、あなたの運の無い出来事は、私達 神の所為で起こりました。」

神「そう、あれは25年前の事です・・・」

<<25年前>>>

天界 最高神の間

不の神「転生の渦がおかしいぞ！」

聖の神「制御できません！」

最高神「われが……」

1時間後

不の神「どうにか食い止めました。」

聖の神「しかし……なぜこんなことが。」

最高神「……」

悪の神「私だよ。」

不・聖の神「……！！」

不の神「貴様は……！！ 封印したはずじゃあ……」

悪の神「な……に簡単な事だよ。封印はある者によつて解かれてんだよ。まあ……その序でに、転生の渦に悪戯いたんだよ。かわいいもんだろ。」

聖の神「かわいいものではありません……！！ 全ての世界の転生が行

われなくなる所だったんですよ!!」

悪の神「それで?なんか困る?」

不の神「貴様は!!」

最高神「少しは、反省したかと思えば・・・」

悪の神「反省?? あははははあ(笑)・・・俺に反省なんて文字はない。あるのは悪のみだ。」

最高神「・・・滅べ・・・」

悪の神「「ぎあああああつあああああ!!」」「」

こうして滅んだかに思えた・・・

悪の神「・・・我はこれだけでは終わらん・・・」

ふんっ

聖の神「何てことを!」



最高神「・・・悪の神は滅んだ、アイツが最後に放った物の処理をするぞ。」

不・聖の神「はい！」「

神「こうして、悪の神は滅んだのですが。彼の死時に放った魔法は、転生する者の生涯の聖の運を 悪 や 不 の運 に変える物でした。この魔法は厄介なもので、人間が使うパソコンウィルスと一緒に、ドンドン浸食していくのです。これを終わらせるのに、25年の月日がかかってしまい。最後の一人である 井上 リオ あなたを元に戻せば終わるはずだったのですが・・・」

リオ「間に合わなかったのですか？」

神「はい。・・・すいません・・・」

リオ「いいですよ。ワザとで無かったのですし、それに他の人は助かったんでしょう？」

私だけの犠牲で住ん良かったよ。別に偽善者ぶるつもりはないけど、本気でそう思う。

私には、親も家族もないし、確かに運の無い私には みんな気味悪がって近づいてこなかったけど

親友が3人も出来た、みんな私が死んでもやっぱりねで笑って見送ってくれそうだし。  
悔いは無いな。

神「あなたという人は・・・」

神は悲しそうな、けれど愛おしそうな表情をした。

リオ「けれど、これから私如何したらいいわけ?？」

神「あなたには、今まで本当は持つはずであった 聖の運 とともに転生してもらいます。」

リオ「へえ??」

普通が一番だと思います。

神「最高神様が、あなたには新たな世界に転生してもらい。幸せになってもらいたいと。」

リオ「それは、今までの私は無くなってしまうのですか？私としての意識は消えてしまうの？」

神「あなたが望めば、あなたとしての意識は残りますし、記憶 考え 思考 など残ります。しかし、あなたの今の容姿をそのままというのは無理です。新たな肉親から生まれるので、このままの容姿だと支障が出てきますので。」

そりゃあ・・・そうだよな。

両親と違う容姿で生まれてきたとしたら、気味悪がれるだろうし・・・  
・下手したら捨てられるか、殺されるよね。

神「あなたが考えてる事が、在り得るので・・・ところで、如何されますか？願いも可能な限りご希望通りになりますよ。」

うつうつうつ~~~~ん~~~~

どうしよう・・・

転生するとしても、願うことなんてないからな・・・  
取りあえず！

仲のいい両親 は 絶対でしょう。

後、優しい兄弟がほしいな。

後、普通に暮らせられるだけのお金のある家ならいいかな、貧乏は大変だし

これぐらいかな。

神「・・・あなたに欲は無いのですか？」

欲??あるよ～～。

無い人間なんていないよ。

今だけ叶えてくれれば十分 欲出しすぎじゃない! (笑)

神「・・・あなたは変わってますね・・・」

「ああ～～。良く言われる (笑)」

神「では、この条件以外は こちらサイドで考えてもよろしいですか？」

「いいよ。」

神「では、今からあなたには転生の渦に入ってもらいます。」

「それって・・・」

グルグル回っていかないといけないの??

神「大丈夫ですよ。あなたには眠ってもらい、転生の渦に入ってもらいますので、次目覚める時は 既に転生済みで新たな人生のスタートとなっているでしょう。」

「そっか。じゃあお願いします。」

神「では、安らぎを・・・」

こうしてリオの意識は遠のいた・・・

神サイド

最高神「行つたか。」

神「はい。」

最高神「しかし、変わった人間出あつたな・・・」

神「本当に、昔 悪の神によつて人生を変えられた者の処理をした時の人間は、欲の塊で宝剣をよこせたの ハーレムにしるだの 凄かつたですからね・・・」

最高神「そうだな。 あそこまでツライ人生を送ってきたのに あんなに真つ直ぐな清らかな魂を持ったものも珍しいからな・・・ 流石、|||||の転生者だと言えるな。」

神「そうですね。 あの方の魂ですもの、清らかですわ。」

最高神「しかし、あの子が本来転生後に承けるハズだった 聖の運と 今回の転生の分 そしてこれから転生する分と 総合すると あの子が望んだモノでは補えないぞ。」

神「こちらサイドにお任せと言っていたので最高神様のしたいようにして宜しいかと。」

最高神「そうか……では」

井上 リオ 24歳

リオ・ノベルズ・ワイナリー

公爵令嬢 4人兄弟の末っ子

兄2人 姉1人

父 王弟 母 元聖女

容姿 色白の 白銀の髪 白銀の目 美少女

能力

魔法特性 全て 魔力 無限

精霊の加護 全ての精霊に好かれる

神子

絶対記憶能力

最高神「取りあえずの能力はこれでいいか。しかし、これでも足りないから」

神「そのうち増やしていつては？」

最高神「そうだな。……あっ！！大事なものを忘れていた。」

植物・動物の加護

（話したり無条件で懐く）

こうして、本人は普通が言いと頼んだのに、普通からドンドン遠ざかるのであった。

普通が一番だと思います。（後書き）

次から転生編に移ります。

前書いたのより、詳しく幼少期を書きます。

うまく書けるかな・・・自信ないです。

誰の転生だったかは、後半にわかってきます。  
結構重要な要素にするつもりです。



無事生まれた  
(前書き)

忙しくてなかなか書けません・・・今回短いです。  
ごめんなさい。

## 無事生まれた

ココは????

ボーっと頭がしている中、  
先ほどまでの事を思い出していた。

そっか・・・新しく生まれ変わったんだ。

ココ何所だろう???

と辺りを見渡すと煌びやかなシャンデリア　美しい家具　ベビーベ  
ットまでもが美しい装飾されていた。  
どうやらお金持ちの家に生まれてらしい。と考えていたところに・  
・

ガチャ

とドアが開き　美しい女の人が入ってきた。

「まあまあ！　もう目を覚ましたの？目の色も私に似たのね。」

こんな美しい人が母ですか!!  
驚きです！　私も鏡を見るのが楽しみです。

「こんにちは、リオ 私がママの ユリア よ。」

リオ「はい。はぢめまちて ママ。」

「???アレ???言葉が出ますね。私の予定では、もっと赤ちゃん言葉で意味のない言葉が出る予定だったんですが・・・マズイデス・・・」

ママ「・・・・あなた言葉が話せるの?」

如何しましょう・・・気味悪がられて捨てられてしまうのですか? やつと母が家族が出来たのに・・・

「うめんなさいでしゅ」

ママ「何て天才なの~~~~~!! 流石あの人の子だわ! それに何てかわいい話し方の! もうママ メロメロよ!」

・・・・

予想と違う反応でビックリして思考がストップしてしまいました。

バンッ!!

といきなりドアが開いたかと思うと3人の男女が入ってきた。

「」「どうし(たんです) たんだ!!」「」

見事に息びったり。

ママ「聞いてよゝあなた。この子もう話せるのよゝ！ ホントあなたに似て天才！！」

「ママに似たんだよ。」

ママ「いいえ！あなたです。」

となにやら バカッフル なみの会話が飛び交っています。

「???」本当に話せるの?? 私は貴方の姉のリサよ。よろしくね。」

リオ「はい。よろしくおねがいたしましゅ」

リサ「・・・ホントにかわいいわ~~~~!!その声でお姉様  
って言つて~~~~」

リオ「おねいちゃま???」

リサ「~~~~~!!」

「???」姉上、そろそろ僕にも話させてくれませんかね。」

「???」僕は君の兄で、レイ だよ。よろしくね リオ。」

リオ「よろしくおねがしましゅ。れいおにいちゃま。」

レイ「・・・悪い虫がつかないように お兄ちゃんが守ってあげ

るからな。こんなに可愛いんだ・・・そう害虫が沢山寄ってきてしまう、害虫駆除をしなくては・・・」

とブツブツ恐ろしい事を言ってますね。  
しかし、さしすせそ がムズイですね。

とみんなそれぞれが、思考を巡らせている中

本人は 発音がうまくいかない事 が気に入らないのか 練習を始めるのであった。

そして、練習している姿を見た家族が またもや、悶えるのであった。

シスコンはほどほどに。

数ヶ月経って分かって来た事がある。

国の名は アストリア王国

父の名は、

ルイ・アストリア 42歳

父は、この国の王と従兄弟にあたるらしい。

つまり王族

母は、

ユリア・アストリア 30歳

元男爵家の令嬢

母が15歳の時、伝染病の流行で両親を亡くし他に親戚も居ず  
途方に暮れているところ、王の命令で男爵夫妻の葬式に来た  
父に一目ぼれされ、無理やり婚約

父と王によっていつの間にか、周りを囲まれ結婚  
そして、父に流されいつの間にか愛しはじめ今にいたる。

兄

レイ・アストリア 14歳

王都にある 魔法学園の中等部に在籍しているらしい  
カッコいいからかなり、モテているみたい

王宮晩餐会とかで 凄いらしい（メイド情報）

まあ・・・残念なのは、シスコンなのが残念

お姉様に群がる 害虫 どもを退治するために手段を択ばないらしい。  
（恐ろしい）

私にも凄い・・・今から害虫駆除の準備をしているらしい。

お姉様みたいに、ソコまで可愛くないのに・・・

姉

リサ・アストリア 13歳

本当は魔法学園に行きたかったが、レイとルイにより  
強制的に女学院に通わされている

13歳にして、フェロモンムンムの美女

婚約者にと大量の文が届くが、レイ ルイによって送り返されている  
（母情報）

私ラブラしく、物凄く過保護 とにかく凄い・・・

と

まあ、こんな感じ

今もお姉様とお兄様が私の取り合いをしています。

レイ「今日は俺と寝るんだ!!」

リサ「まあ! 14歳にもなる男性が妹と寝るなんてはしたないですわ! 今日は私と寝るんです。」

といった感じで喧嘩しています。

毎日、学校から帰って私の取り合い。

何時まで続くか・・・

「今日はお父様と寝ます。」

「そんな~~~~~!」

とこんな感じで毎日を過ごすのでした。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3324z/>

---

少女転生物語

2011年12月25日21時52分発行